

どうして、金利は上がったたり 下がったりするの? どんな影響があるの?



A ひとことアンサー

天候不順などの影響で野菜が供給不足になると店頭での値段が上がるのと同じように、お金を借りたい人が多いときには金利は上昇し、少ないときには下降します。



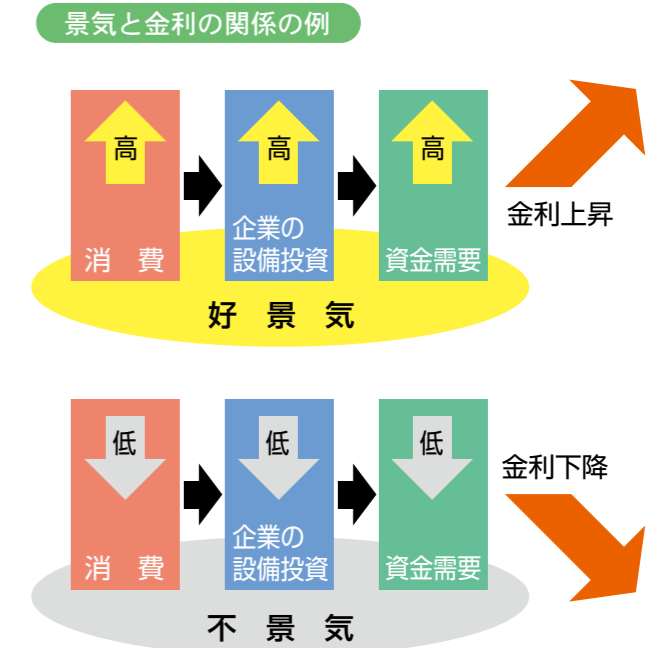
※中央銀行である日本銀行は、物価の安定を目的として、経済における通貨の量や金利を適切に保つ金融調節を行っています。

景気・物価・為替などが金利に影響。

銀行にとって預金金利は仕入れ値、貸出金利は売り値にあたり、その差が収益(儲け)になります。現在では、預金金利も貸出金利も各銀行が自由に決めています。お金を貸したい人(供給)より、借りたい人(需要)が多くなるとお金が不足しますから、お金の使用料ともいえる金利は上昇します。

一般に、景気が良くなりつつあるとき(図参照)や、物価が上昇しようとするときなどにそれぞれ金利が上昇するといわれています。下降する局面は、前述の条件がそれぞれ逆の場合です。

金利の変化による影響はさまざまですが、たとえば金利が上昇しつつある場合、企業や個人の借入意欲が下がる傾向となり、結果として景気が安定し、物価の上昇を回避できると考えられています。



住宅ローンは将来の金利動向がカギ。

預金や貸出の金利は、大きく固定金利と変動金利の2種類に分けられます。住宅ローンなどの場合はこれらを組み合わせたものもあります。

住宅ローンは長期間にわたって返済することが一般的なため、どのタイプの金利を選ぶかは将来の総

返済額に大きく影響します。変動金利の住宅ローンの場合、金利上昇局面においては予想外の負担になる場合もあります。逆に、金利の下降局面においては一般に変動金利ローンのほうが有利であるといわれています。

住宅ローンの金利タイプ別の特徴

金利タイプ	特徴	メリット・デメリット
固定金利タイプ	全期間の金利を固定するローン。(段階金利になっているものもある)	<ul style="list-style-type: none"> ● 契約時に返済期間全体の返済額を確定することができる。 ● 金利が下がっても、将来にわたり高金利で返済しなければならない。 ● 金利が上がっても、将来にわたり低金利で返済をすればよい。
変動金利タイプ	返済期間中に金利が変動するローン。年2回の金利の見直し、返済額は5年ごとに見直し一般的な。	<ul style="list-style-type: none"> ● 同時期の固定金利タイプの金利よりも低いケースが多い。 ● 将来の金利の下降とともに返済額が減る。 ● 将来の金利の上昇とともに返済額が増える(未払利息が発生する可能性もある)。
固定金利指定タイプ	一定(特約)期間の金利を固定するローン。金利・返済額は特約期間終了後に見直し。	<ul style="list-style-type: none"> ● 同時期の固定金利タイプの金利よりも低いケースが多い。 ● 契約時から一定期間しか返済額を確定することができない。

